

テーマ

災害時のSNSから情報抽出・分析

適用分野

地域、災害、行動促進、DeepLearning

研究名称

大規模災害時の行動促進情報の抽出・分析

氏名所属

灘本明代 教授
知能情報学部 知能情報学科



内容

●特徴

災害時にユーザが、SNSからそのユーザの状況（時間、場所、感情）に適した有益な行動促進情報を容易に取得できる手法の研究。

●研究内容

地震や豪雨、台風といった大規模災害時には、様々な情報がSNS上にある。本研究ではその中から読み手に行動を促進する情報（以下、行動促進情報と呼ぶ）を対象とし、大規模なSNSから有益な行動促進を抽出する手法の研究を行う。

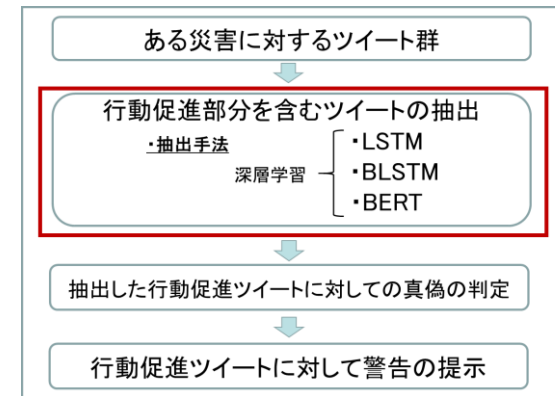
行動促進情報とは例えば、「大雨により河川が増水しているので近づかないようにしましょう」や「風が強いので、外出は控えましょう」といったものである。特にSNS上ではその地域特有な災害情報が多くある。例えば上記の例の場合SNS上では「大雨によりXXX川が増水しているので、YYY地域の方は早めに避難した方がよいですよ」といったようにその地域に即したより具体的な情報はある。また、上記例のように、被災地内同士での情報もあれば「AAA地域は停電がつづいているのに全く報道されていません。

みなさんAAA地域の停電のことを拡散して下さい」といったように、被災地から被災外への行動促進情報発信もある。

このように、情報発信者及び情報発信地によっても特徴が異なる。

本研究ではこのように大規模災害時のSNS上の行動促進情報の特徴分析をすると共に、これら行動促進情報を自動で抽出する手法の提案を行う。

また、これまで我々の研究により、災害時のデマ情報には行動促進情報が多く含まれていることがわかった。そこで、大規模災害時の行動促進情報からデマ情報を抽出し提示する事も行う。



キーワード

SNS、災害、行動促進、DeepLearning

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究